

役立つ情報と ウソや間違いが 混在するインターネット



インターネットを使い始めたばかりの子どもたちは、ネット上に掲載されている情報を、全て本当のこととして受け取ってしまいがちです。

子供たちの間に出回る偽情報？

今年の夏休みに、子どもたちの間にある情報が出回りました。それは「通信料の制限を解除する裏技」というものでした。その方法は、「1を二回、0を一回、すぐに通話ボタンを押す」と通信料の制限が解除されるという内容でした。

しかし、その偽情報の結果、「間違い110番通報」が各地の警察本部で急増したとのことでした。

「多くの人が見ているインターネットに掲載されている情報だから信頼できる」と、内容をよく吟味せず、表示された内容を本当のこととして受け止めて行動した結果、社会を混乱させる状況を引き起こしかねない事例です。



上手に情報収集できる能力が必要

インターネット上の情報は、書き手の判断だけで発信できるため、その真偽を受け手がしっかりと見極めることが必要です。

特に、子どもたちにインターネット上の情報を利用させる際には、本などの他のメディアの情報も併せて活用させるなどして、多様な方法で情報を収集したり、他の情報と比較したりする力を育成することが大切です。



ご家庭での対応

子どもたちは、「〇〇君がいていた」、「〇〇に書いてあった」ことを根拠に主張したりします。

そのことと同じように、「インターネットに書かれていることは本当」と素直に受け取ったり、友だちから回ってきた投稿が面白ければ、特にその真偽を確認することなく、無責任に転送してしまったりすることもあります。

①インターネット上の情報は、有益なものもあれば、間違っている情報もある、②正しくない情報を流されて（広められて）困っている人もいる、③自分が間違っただけでなく、自分が間違った情報の発信者になっているかもしれない、ということを、親子で話していただけないでしょうか。